

平成24年度 業務実績報告書

平成25年 6 月

公立大学法人九州歯科大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人 九州歯科大学
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目6番1号
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	19,679,209,480円(全額 福岡県出資)
沿 革	<p>大正 3年(1914)4月 私立九州歯科医学校(2年制)を創設 10年(1921)4月 九州歯科医学専門学校(4年制)に昇格 昭和19年(1944)4月 福岡県に移管、医学科を設置し福岡県立医学歯学専門学校に改称 (昭和22年4月医学科廃止) 24年(1949)4月 九州歯科大学に昇格 平成18年(2006)4月 公立大学法人九州歯科大学を設立</p>
法人の目標	<p>公立大学法人九州歯科大学は、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成することを使命とする。</p> <p>特に次の取組については、今期6年間の重点事項とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歯科保健医療に貢献する医療人を育成するための教育を推進する。 ・特色ある地域歯科保健医療活動を展開し、地域社会に貢献する。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージを確固たるものにする。 <p>1. 教育: 歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 <p>2. 研究: 大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。</p> <p>3. 社会貢献: 大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。</p> <p>4. 業務運営: 理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。</p> <p>5. 財務: 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。</p> <p>6. 評価及び情報公開: 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。</p>

法人の業務	1. 九州歯科大学を設置し、これを運営すること。 2. 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3. 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4. 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5. 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6. 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
-------	--

2. 組織・人員情報
(1) 役員

役員の数等は、公立大学法人九州歯科大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	西原 達次	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 学長
副理事長	久藤 元	平成24年4月1日～平成28年3月31日	元米国安川電機取締役会長
常務理事(事務局長)	亀川 正知	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 事務局長
理事(学外)	國武 豊喜	平成24年4月1日～平成26年3月31日	北九州産業学術推進機構理事長
理事(学外)	利島 康司	平成24年4月1日～平成26年3月31日	北九州商工会議所会頭
理事(学内)	寺下 正道	平成24年4月1日～平成25年3月31日	副学長・附属病院長(総合診療学分野教授)
理事(学内)	鱒見 進一	平成24年4月1日～平成27年3月31日	副学長(顎口腔欠損再構築学分野教授)
監事	廣瀬 隆明	平成24年4月1日～平成26年3月31日	広瀬公認会計士事務所 所長(公認会計士)
監事	服部 弘昭	平成24年4月1日～平成26年3月31日	ナリッジ共同法律事務所 弁護士

(2) 教員

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
教員数	常勤(正規)	119人	119人	116人	120人	120人	120人	
	内訳	教授	24人	23人	22人	25人	26人	26人
		助教授	-	-	-	-	-	-
		准教授	16人	15人	16人	18人	20人	19人
		講師	16人	16人	14人	10人	8人	8人
		助教	63人	65人	64人	67人	66人	67人
	助手	-	-	-	-	-	-	
非常勤講師	136人	134人	135人	144人	173人	196人		
合計		255人	253人	251人	264人	293人	316人	

教員数増減の主な理由

口腔保健学科の在籍が3学年までとなったことにより、授業のコマ数も増えたため、非常勤講師が増加している。

(3)職員			平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人
	正規職員	県派遣	52人	52人	41人	38人	36人	33人
		プロパー	11人	11人	18人	24人	24人	34人
		他団体派遣	人	人	人	人	人	人
		その他	人	人	人	人	人	人
		計	63人	63人	59人	64人	60人	67人
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	59人	57人	55人	54人	61人	65人	
	合計	122人	121人	115人	117人	122人	133人	

職員数増減の主な理由

正規職員増の理由:プロパー職員の採用(事務職員の新規採用及び看護師の補充)によるもの。

(4)法人の組織構成

歯学部、附属病院、附属図書館、大学院歯学研究科、事務局

3. 学生に関する情報

関連する 学部・大学	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
大学	計	765人	721人	94%	96	95	94	96	94	94
内訳	歯学部	645人	643人	99%			100	100	99	99
	歯学科	570人	568人	99%	103	101	100	99	99	99
	口腔保健学科	75人	75人	100%				100	100	100
	大学院 歯学研究科	120人	78人	65%	64	70	70	79	72	65

収容定員と収容数に差がある場合の主な理由

大学院:大学院に進み研究を志す学生が減少する傾向にあり、定員に満たない入学状況が続いていることによるもの。

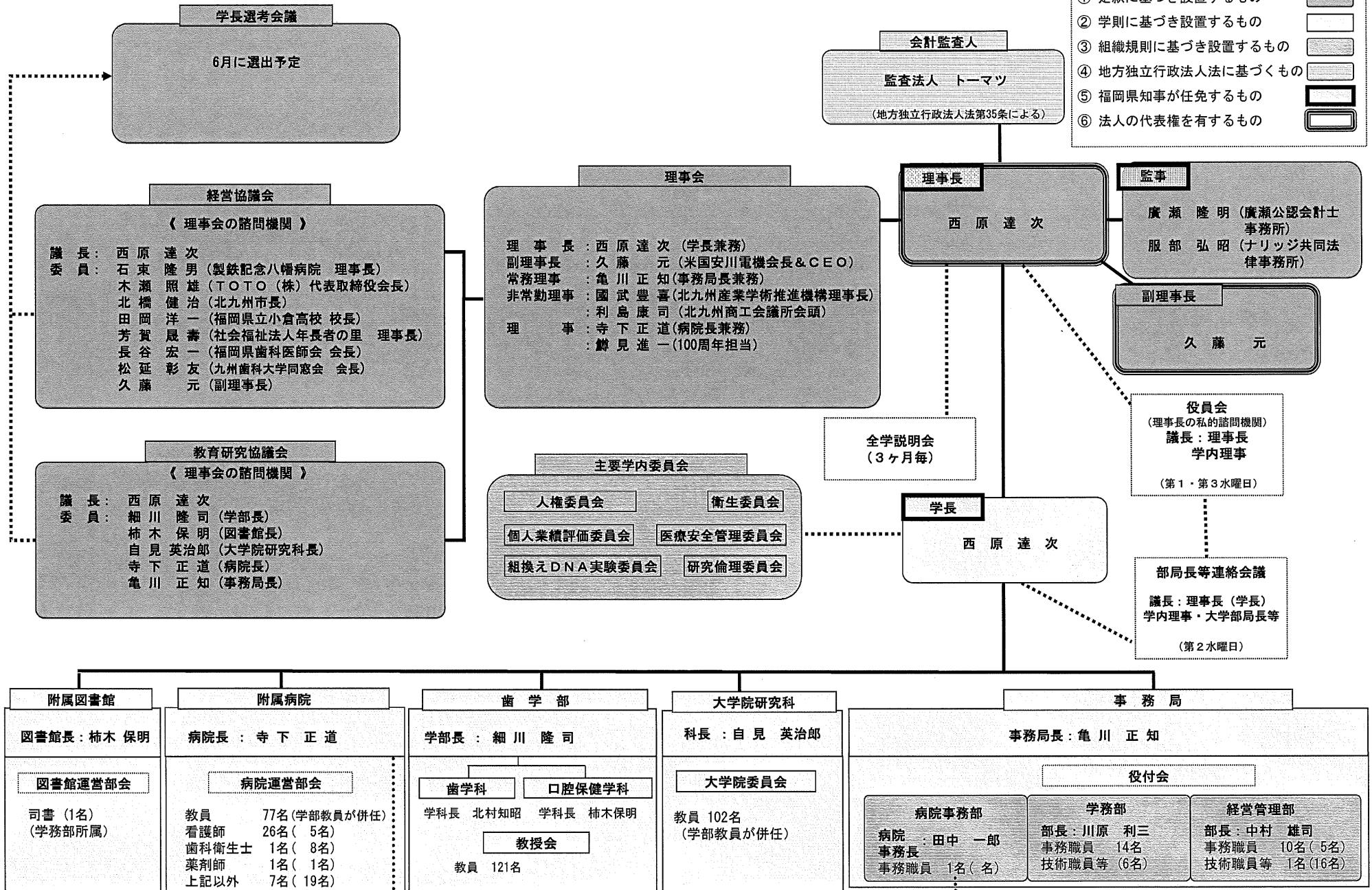
4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	西原 達次	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学理事長
副理事長	久藤 元	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学副理事長
学外委員	石束 隆男	平成24年4月1日～平成26年3月31日	製鉄記念八幡病院理事長
	木瀬 照雄	平成24年4月1日～平成26年3月31日	TOTO(株)代表取締役会長
	北橋 健治	平成24年4月1日～平成26年3月31日	北九州市長
	田岡 洋一	平成24年4月1日～平成26年3月31日	福岡県立小倉高校校長
	芳賀 晟壽	平成24年4月1日～平成26年3月31日	(社福)年長者の里理事長
	松延 彰友	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学同窓会会長
	長谷 宏一	平成24年4月1日～平成26年3月31日	福岡県歯科医師会会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	西原 達次	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 学長
学部長	細川 隆司	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 歯学部長
学内組織の長	亀川 正知	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 事務局長
	寺下 正道	平成24年4月1日～平成25年3月31日	九州歯科大学 附属病院長
	柿木 保明	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 附属図書館長
	自見 英治郎	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 大学院歯学研究科長
	鱒見 進一	平成24年7月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 副学長

公立大学法人九州歯科大学の組織図

平成24年4月1日現在

-凡例-

- ① 定款に基づき設置するもの
- ② 学則に基づき設置するもの
- ③ 組織規則に基づき設置するもの
- ④ 地方独立行政法人法に基づくもの
- ⑤ 福岡県知事が任免するもの
- ⑥ 法人の代表権を有するもの



教職員数は平成24年4月1日現在

(嘱託・委託職員数)

法人自己評価

I 全体

本学は、全国唯一の公立歯科大学であるという特色を活かし、中期目標において優秀な歯科医療人を育成する教育、特色のある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する等の目標を掲げたところである。

この実現に向け、理事長のリーダーシップのもと、自立性を確保しつつ、社会のニーズに対応するための体制を整備し、経営者の立場に立った適正な財政運営、厳正な評価の実施、積極的な情報公開等に取り組んできた結果、計画に掲げた事項については、概ね達成することができた。

II 中期目標項目別

1 教育

学生の学習意欲を高めるとともに、高度な専門的知識・技術を習得させるという観点から、「教育方法の改善」及び「カリキュラムの充実」に努めた。

また、充実したFD活動の展開や、個人業績評価データの活用等を通じて、教育力の向上を図った。

歯科大学の教育目標の原点である優秀な歯科医師を社会に輩出することに傾注した取組を進めてきた結果、今回の歯科医師国家試験の合格率が96.2%（新卒）、29大学中2位という顕著な成果を得ることができた。

九州工業大学との歯工学連携大学院プログラムは順調に発展しており、歯学・工学を融合した領域の教育研究の展開が図られている。

受験生に向けた広報活動については、前年度よりさらに内容を充実させ、優れた資質・高い意欲を持った学生の確保が図れた。

学生支援の面においては、次年度口腔保健学科で初の卒業生を輩出することも見据え、就職支援体制の構築を行った。

2 研究

外部大型資金として、文部科学省の「地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト」を獲得した。ただし、この研究プロジェクトは、医歯工連携のもとで、大学院教育を充実させるもので、次年度以降は「教育」の項目の中で、事業展開していくことになると考えている。

研究費の配分については、第1期中期計画期間の配分方式を見直し、第2期中期目標の達成に資する研究に重点配分する学長重点枠研究費の仕組みを設けた。この研究費を活用して、国際会議である第1回Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2013を開催し、研究成果の発信も行った。

九州工業大学との歯工学連携も順調に成果を出しており、研究成果がアメリカの権威ある医学誌に掲載されたり、学会において研究成果を発表した大学院生が表彰を受ける等、高い評価を得ることができた。

3 社会貢献

地域社会への貢献に関しては、公開講座の目標を大きく超えて7回開催し、地域住民に有用な情報発信を行った。また、地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動や在宅療養高齢者に対する歯科保健医療サービスの提供に向けての体制整備を行った。

国際交流に関しては、新たにミャンマーの2大学と学術交流協定の締結、台湾の1大学と覚書を交わし、学術交流を開始した。

加えて、海外での歯科保健活動については、ベトナムに今回チームを組んでの参加体制をとったことにより、現地の歯科医療に従前以上の貢献を果たすことができ、そのことが新聞報道にもなったところである。

4 業務運営

業務運営については、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善に努めた。

重要事項の企画立案・検討や情報発信を行う組織として企画広報班を設置したことにより、当該業務にかかる責任の所在が明確となったとともに、戦略的・体系的な業務運営に寄与することとなった。

また、事務局機能の強化に向け、県派遣職員に依存しない事務局体制への移行を見据え、プロパー職員を計画的に採用した。

県立三大学の事務処理の共通化という課題に対しては、本学主導で県立三大学事務統合等検討会議を開催し、議論を始めた。

附属病院については、診療科再編の効果の検証を行い、診療体制の充実に向けた課題の抽出を行った。また、安心・安全の医療の提供のため、諸会議においての検討等を経て、体制整備の推進を図った。

法人自己評価

5 財務

外部研究資金としては、科学研究費等の個人研究費の獲得状況が従前どおり高い水準を維持できたことに加え、外部大型資金(大学改革推進費等補助金)も獲得した。歳出面においては、給与支給事務の外部委託により、職員1名の削減を図ることができた。附属病院については、先進医療1件を維持するとともに、積極的に歯科訪問診療を行うことにより収入増を図った。

6 評価及び情報公開

評価については、県の公立大学法人評価委員会の評価結果について全学説明会で周知するとともに、特に評価結果が低かった項目については、速やかにその改善を図った。

次期認証評価については、自己評価部会において自己評価に着手するとともに、アンケート結果を受けて、改善すべき点は改善した。

情報公開については、公表が義務化されている教育研究活動情報については、最新情報への速やかな更新を行うとともに、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを新たに公開した。

創立百周年に関しては、創立記念日を活用しての教職員・学生の機運の醸成を図った。加えて、百周年記念市民公開講座を開催する等さまざまな機会を捉え、広く周知を行った。

Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について

「地域の歯科保健医療に貢献する医療人を育成するための教育を推進する。」

歯科医療人としての自覚を高める初年次教育から、実践的な臨床能力を得るための臨床実習充実等のカリキュラム編成に取り組んだ。加えて、教員の教育力向上のために、FDを活発に行うとともに、個人業績評価システムの充実化を図った。こうした取組をはじめとして教育の充実に努めたことが、前年度の公立大学法人評価委員会で評価が低かった歯科医師国家試験合格率において全国2位(新卒)という結果につながったが、今後、継続した改善を行っていくつもりである。

「特色ある地域歯科保健医療活動を展開し、地域社会に貢献する。」

地域歯科医療の中核病院としての機能を十分発揮できるよう、病診連携室の業務を拡充し、歯科医師会や近隣の歯科医療機関等との意見交換や勉強会を行い、地域包括型歯科医療連携体制の整備を進めた。また、地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動や在宅療養高齢者に対する歯科医療保健サービスの本格実施に向けて、関係機関との協議やニーズ調査、アンケート調査等を行った。

「専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。」

事務局に、大学運営の企画立案・検討や情報発信を中心となって行う企画広報班を設置し、そこに情報処理専門として採用したプロパー職員を配置した。それ以外の部署でも、県の派遣職員に依存せず、自立的な大学運営を図っていけるよう、計画的なプロパー職員の配置に努めた。

「全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージを確固たるものにする。」

2014年度に本学が創立百周年を迎えるというこの機会を捉え、創立記念日における学内での機運を醸成するとともに、記念事業の一環である市民公開講座での情報発信、同窓会報や新聞広告への掲載によるPR、封筒・名刺・入学募集要項・学生手帳等を使っての百周年ロゴマークの露出の増加、等の取組を通じて、ブランドイメージの定着を図った。

年度計画項目別評価

中期目標 1 教育	「歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。」 (1)特色ある教育の展開 九州歯科大学は、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し信頼関係を築くことができるコミュニケーション能力を育成するための教育を実施する。 (2)教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。 (3)意欲ある学生の確保 明確な入学受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を选拔する。 (4)学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。
--------------	---

項目	中期計画 実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
					評価	理由		
1.地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 1.授業要綱の検証と改善 2.成績評価基準の明確化 3.教育の効果・成果の検証	1【初年次教育の改編・充実】 ①初年次教育で、歯科医療人としての職務を体験させ、プロフェッショナルとしての自覚を高めるような教育カリキュラムを作成する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)	1-1【平成24年度計画】 ○学生の学習意欲を高めるため、専門教育と連携し体験学習を含めた初年次教育、歯科基礎医学教育を行うためのカリキュラム作成を検討する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)	1	【平成24年度の実施状況】 ○学生の学習意欲を高めるため、専門教育と連携した初年次教育、歯科基礎医学教育の遂行に向けてカリキュラム改編に着手した。平成24年度は最優先の取組として大学の学びの基本となるクリティカルシンキングやライティングなども含めた初年次教育の講義・演習に関する検討・見直しを行った。 ・1年生講義として問題解決能力育成のための講義「基礎教育セミナー」を開設した。 ・1年生講義・演習として、「歯科概論Ⅰ、Ⅱ」に病院見学・実習(クリニカル・エクスポージャー)を加えた。 ・2年生講義として基礎歯学と臨床歯学を連携する「臨床歯科医学概論」を開設した。 ○目標実績 ・学生の成績：平均GPA2.3(満点4)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		1
1.	2【専門課程における教育カリキュラムの検証と充実】 ①歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版(H22年度)に準じて、臨床登院実習を中心に歯学科カリキュラムを充実させ、実践的歯科医師育成を推進する。 ②1～4年次の完成年度(H25)以降、卒業生の就職状況を踏まえて、口腔保健学科カリキュラムを検証する。 ③チームで医療の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の連携科目を開設し、口腔保健医療の総合大学としてアピールできるカリキュラムを編成する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)	2-1【平成24年度計画】 ○歯学科における臨床実習開始前のシミュレーション実習と臨床推論教育を充実させるとともに、臨床実習修了時の学生の能力評価方法を検討する。 ○口腔保健学科学生の基礎臨床能力の充実を目指した附属病院における臨床実習を実施する。 ○チーム医療の認識を高めるため、初年次教育および臨床実習前教育で歯学科と口腔保健学科の連携科目を組み込んだカリキュラムを充実させる。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)	2	【平成24年度の実施状況】 ○臨床実習開始前のシミュレーション実習と臨床推論教育を充実させ、臨床実習修了時の学生の能力評価について検討した。その上で、以下のような改編を行った。 ・3、4年生の臨床基礎実習として従来の科目毎の実習を見直し、実際の診療に沿った実習である「シナリオベース実習」に改編した。 ・3、4、5年生の講義に、ICTを用いた参加型授業「臨床推論Ⅰ、Ⅱ」を導入した。 ・5年生の実習として、実際の臨床実習で頻度の高い技術を対象とした「スキルアップ実習」を導入した。 ・6年生臨床実習における自験症例を増やした。 ・6年生臨床実習修了時に臨床能力修得状況を評価するため「臨床実習修了時能力検定試験」を導入した。 ○口腔保健学科学生の基礎臨床能力向上を図るため、臨床実習カリキュラムを見直した。 ○口腔保健学科3、4年生の臨床実習カリキュラムを改編した。 ○チーム医療の認識を高めるため、初年次教育および臨床実習前教育で、歯学科と口腔保健学科の連携科目を組み込むなどカリキュラムを充実させた。 ・両学科2年生の講義・実習としてチーム医療の意識を涵養するため「歯科医療人育成学」を大幅に改編した。 ○目標実績 ・学生の成績：平均GPA2.3(満点4)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		2

九州歯科大学(教育)

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1.	3【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】 ①モデル・コア・カリキュラム改訂にあわせた各教科の到達目標と成績評価基準を授業要綱に明示する。 ②厳格な成績評価を行う。	3-1【平成24年度計画】 ○シラバスに明確な達成目標と成績評価基準を明示し、学生が系統的な歯学教育の流れを理解できたかを基礎医学教育、臨床歯科医学教育、臨床実習終了時に理解度・習得度をアンケート調査する。 ○学生と保護者に成績を開示し、学生・保護者説明会を行い、その上で学生からの成績に対する不服等の意見聴取を検討する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○シラバスに明確な達成目標と成績評価基準を明示し、学生が歯学教育の流れを理解できたかを検証するため、理解度・習熟度についてのアンケート調査を実施したところ、概ね良好な結果が得られた。 ・シラバスの項目として学生の到達目標、講義・実習の各回における学習目的、成績評価基準を明示した。 ・カリキュラム概要を包括的に把握できるカリキュラム・マップ作成の検討を開始した。 ○学生が作成した学習行動計画を年度毎に検証するシステムの構築を図るとともに、成績表の保護者への送付と保護者説明会を引き続き開催した。 ・成績不振の学生に対しては、保護者面談を実施して、学習方法などについて、学生と保護者を交えた説明会を行い、学修状況の改善を図った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		3
1.	4【教育の成果・効果の検証】 ①歯学科は、共用試験 Objective Structured Clinical Examination (OSCE)とComputer Based Testing (CBT)を教育効果という視点で活用する。 ②入学試験、定期試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、両学科とも国家試験の高い合格率の維持を目指すとともに、入学試験方法の改善を図る。 ③卒業試験に臨床実習試験制度を導入する。 ○達成目標 ・(歯学科)共用試験：共用試験合格率 100% ・(歯学科)国家試験合格率：全国29大学の中で常にトップクラスを目指す ・(口腔保健学科)国家試験合格率：歯科衛生士国家試験 100%(新卒受験者)	4-1【平成24年度計画】 ○歯学科は、共用試験のデータを解析し4年次生までの講義・実習の充実を図る。 ・成績不振の学生に対しては、教員によるチューター制度を活用して不得意科目の克服を図るとともに、成績・修学状況管理システムを活用して修学支援を行う。 ・国家試験終了後、事務局の学務管理システムと連携し直ちに解答分析結果と各学年における成績との関連性を分析し、修学支援につなげる。 ○臨床実習終了時における臨床能力評価試験制度導入について検討する。 ○入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった各試験結果との関連の分析方法を検討する。 ○試験問題を組織的に検証する手法を検討する。 ○達成目標 ・歯学科共用試験：共用試験合格率 100% ・歯学科国家試験合格率：全国29大学の中で5位以内を目指す	1	【平成24年度の実施状況】 ○歯学科は、共用試験結果の解析データをもとに、学生の弱点科目の克服を目的として、臨床実習開始前の講義・実習の充実、および臨床実習中の講義・成績評価システムを確立した。 ・4年生で実施される共用試験結果の解析データをもとに、5年生、6年生での歯科医師国家試験対策、および臨床実習技術指導の内容を充実した。 ・第105回までの歯科医師国家試験(平成24年実施)で不合格となった者および第106回歯科医師国家試験(平成25年)受験予定者の国家試験対策に、臨床実習期間中に、不得意科目克服に向けて指導を充実した。 ・成績不振の学生に対しては教員によるチューター制度を活用して徹底的な不得意科目の克服、および事務局による支援を継続した。 ・国家試験終了後、直ちに解答分析を行い、事務局による学務管理システムと連携し、今後の教育方針の参考とした。 ○臨床実習終了時に学生の臨床能力評価試験を実施した。 ・臨床実習終了時における学生の臨床能力評価試験トライアルを早期に実施して、次年度の臨床実習カリキュラム改編に反映させた。 ○入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった各試験結果との関連を分析し、初年次からの各学年における教育カリキュラムと入学試験方法の改善を図った。 ・入学試験実施方法の検討を全学レベルで開始し、改善を図った。 ・入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった各試験結果の関連について分析した結果をFDを通じて全教員に周知し、全学的な学生教育体制の向上につなげた。 ○試験問題の組織的な検証を実施した。 ・学教務組織として教員から構成される教務部会において、各科目責任者が作成した試験問題について、試験前後の検証を実施した。 ○目標実績 ・歯学科共用試験：共用試験合格率：CBT 97.8%、OSCE 100% ・歯学科国家試験合格率：全国29大学の中で2位(新卒)、4位(総合)	A+	【高く評価する点】 ・国家試験対策に、臨床実習期間から歯科医師国家試験前までの教育システムを通して、不得意科目克服に向けた継続的な指導が実施された。 ・臨床実習終了時に学生の臨床能力評価試験が早期に実施されたことで、次年度の臨床実習カリキュラム改編に反映させることができた。 ・歯科医師国家試験の合格率が96.2%(新卒)、29大学中2位と非常に優秀な結果を得られた。 【実施(達成)できなかった点】	No.8「資格試験合格率、免許の取得」	4
2.特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成 1.授業要綱の充実と改善 2.大学院指導の客観的評価 3.学位審査方法の検証	1【大学院教育組織の検証と適正な運用】 ①大学院カリキュラムを定期的に検証し、高度歯科医療人育成に向けて体系的な教育プログラムを構築する。 ②学位審査方法及び募集定員を検証し、質の高い教育・研究者の育成を目指す。 ③臨床系大学院指導の客観的評価法を検討する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA3以上	1-1【平成24年度計画】 ○シラバスの内容を検証し、受講者数のデータを踏まえて、歯学研究科大学院教育カリキュラムの体系化を目指す。 ○准教授・講師を学位審査の副査に登用する。 ○過去3年間の定員充足率を検証する。 ○具体的な症例数と臨床研究の発表数などを基準とした評価方法を検討する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA3以上(満点4)	1	【平成24年度の実施状況】 ○歯学研究科大学院教育カリキュラムを体系化した。 ・大学院教務部会でシラバスを検証し、受講者がいない科目の整理・統合を図った。 ○10月より准教授・講師を学位審査の副査に登用し、23件中10件で准教授、2件で講師が副査を務めた。 ○過去3年間の定員充足率を検証し、定員を30名/年から25名/年へ削減を決定した。 ○大学院生の臨床症例数及び臨床研究の発表数を分野長が評価した。 ○目標実績 ・学生の成績：平均GPA3.1	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		5

九州歯科大学(教育)

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2.	2【歯科保健医療に貢献する教員・研究者の育成】 ①豊かな科学性と論理性を備えた人材を育成するために口腔保健学科に大学院を設置する。 ○達成目標 ・口腔保健学科大学院の充足率:100%	2-1【平成24年度計画】 ○平成26年4月の口腔保健学専攻(修士課程)の開設に向け、文部科学省への申請準備を行う。	1	【平成24年度の実施状況】 ○口腔保健学専攻修士課程の開設に向け、ワーキンググループを設置し、積極的に協議を行い、申請準備を進めた。 ・ワーキンググループで趣意書等の申請に必要な書類の作成を行った。 ・文部科学省と設置に係る協議を行った。 ・本学理事会において、開設について承認手続きをとった。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		6
2.	3【歯工学連携大学院の充実】 ①歯工学連携の充実を図り、大学院教育のカリキュラムを改編する。 ○達成目標 ・大学院連携による相互単位認定者:10名以上(年間) ・論文数:英文誌5件(年間) ・特許保有件数:1件(第2期中期計画期間を通して年間に保有する件数)	3-1【平成24年度計画】 ○歯工学連携大学院設置後から現在までの講義受講者数と単位認定の実績を評価する。 ○歯工学連携大学院に係る研究費を適正に配分する。 ○達成目標 ・大学院連携による相互単位認定者:10名以上(年間) ・論文数:英文誌5件(年間) ・特許保有件数:1件	2	【平成24年度の実施状況】 ○歯工学連携大学院設置後から現在までの講義受講者数と単位認定の実績を評価し、受講者のいない科目を削除し、新たな科目を付け加えた。 ○学長重点枠の中から歯工学連携大学院に係る研究2件に対して研究費を配分した。 ○目標実績 ・大学院連携による相互単位認定者:9名(年間)(本学5名、九工大4名) ・論文数:英文誌5件(年間) ・特許保有件数:1件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.22「大学間連携」	7
3.教員の教育力の向上	1【FDによる創造的授業開発の推進】 1.教育実施体制の検証・改善 2.評価方法の検証・改善と適切な運用 ①FD活動を充実させ、学部および大学院における教育活動の改善につなげる。 ②FD活動の有効性を検証する。 ○達成目標 ・FD参加率およびアンケート調査:参加率95%、平均4点以上(満点5)	1-1【平成24年度計画】 ○学部長のもとに設置されたFD委員会を中心に、教育の改善に向けてFD活動を行う。 ・啓発のための講演会やワークショップを年間10回行う。 ・FDのアンケートにおける質問と評価の項目を充実させ、有効性を検証する。 ○達成目標 ・FD活動の教員の参加率:各回95%以上 ・平均4点以上(満点5)	1	【平成24年度の実施状況】 ○FDで、昨年度に続いて「本学における初年次教育」というテーマのワークショップを開催し、外部より講師を招聘して歯科医療人教育における導入教育の重要性について、教員の認識を高めた。 ・教育改善につながるテーマを中心に13回開催し、その内1回は、ワークショップを祝日に開催した。 ・アンケート項目を見直し、毎回の結果について一週間以内に集計し精査できる体制を整えた。 ○目標実績 ・FD活動の教員の参加率:平均95.6%(13回の内5回は参加率100%) ・アンケート調査:平均4.1点(満点5)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.10「FD」	8

九州歯科大学(教育)

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3.	2【教育力向上のための教育力評価システムの開発】 ①教員の授業力向上のために、授業評価や個人業績評価データを活用し、年次推移などを踏まえた分析を行い、講義だけでなく臨床実習も含めた形で、教員の教育力を多面的に評価できるシステムの開発を目指す。 ②学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員にフィードバックし、授業改善に役立てる。 ③教員に対して、組織的に教育活動の改善を求める。	2-1【平成24年度計画】 ○授業評価や個人業績評価データを活用し、教員の教育力を多面的に評価するシステムをH25実施に向け検討する。 ○学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員に適切に通知し、授業改善を促す。 ○授業評価や個人業績評価データを活用し、教員に対して教育活動の改善を求める。	1	【平成24年度の実施状況】 ○授業評価や個人業績評価データを活用し、教員の教育力を組織的に評価するシステムを構築し、H25からの運用が可能となった。 ○学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員に通知し、学部長面接等で授業改善を促した。 ○授業評価や個人業績評価データを活用し、教員に対して教育活動の改善を求めた。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.9「学生による授業評価」	9
4.適性のある優秀な人材の確保 1.高いモチベーションを有する人材を確保する入学試験方法の開発 2.高校訪問やオープンキャンパスなどによる充実した広報活動の展開 3.新たな高大連携事業の展開	1【アドミッションポリシーを重視した入学選抜試験の実施】 ①アドミッションポリシーという視点で個別入試およびAO入試結果を検証する。 ②平成21年度告示高等学校学習指導要領に基づく大学入試センター試験改訂に対応する。 ○達成目標 ・AO入試志願倍率および辞退率 ・一般入試の志願倍率、辞退率 (歯学科) AO入試 一般入試 志願倍率 3.0倍 志願倍率 4.5倍 辞退率 0% 辞退率 5% (口腔保健学科) AO入試 一般入試 志願倍率 3.0倍 志願倍率 2.7倍 辞退率 0% 辞退率 10%	1-1【平成24年度計画】 ○AO入試の結果を検証する。 ・歯科医師としての適性という視点から、個別面談及び集団討論の有効性について入学後のGPAおよび国家試験成績等との相関を分析する。 ・口腔保健学科のAO入試について検証する。 ○24年度中に平成27年度入試の改訂に関する検討を終え、受験生にホームページの掲載等により周知する。 ○達成目標 ・(歯学科) AO入試 : 志願倍率 3.0倍 辞退率 0% 一般入試 : 志願倍率 4.5倍 辞退率 5% ・(口腔保健学科) AO入試 : 志願倍率 3.0倍 辞退率 0% 一般入試 : 志願倍率 2.7倍 辞退率 10%	1	【平成24年度の実施状況】 ○AO入試の結果を検証した。 ・個別面談及び集団討論の有効性について入学後のGPAおよび国家試験成績等との相関を歯科医師としての適性という視点から分析したが、個別入試(前期)との比較で有意な相違は認められず、さらなる追跡調査が必要となった。 ・口腔保健学科のAO入試について検証したが、3年生のデータで得られる情報は少なく、今後、さらなる追跡調査が必要となった。 ○H24年度中に平成27年度入試の改訂に関する検討を終えた。受験生に大学ホームページ(H25年3月28日掲載)により周知した。 ○目標実績 ・(歯学科) AO入試 : 志願倍率 3.47倍 辞退率 0% 一般入試 : 志願倍率 5.59倍 辞退率 6% ・(口腔保健学科) AO入試 : 志願倍率 3.67倍 辞退率 0% 一般入試 : 志願倍率 3.27倍 辞退率 18%	A	【高く評価する点】 今年度も全国29歯科大学の中で、歯学科の入学定員に達していない大学が5校あるなかで、上位4番という高い志願倍率が得られた。あわせて、口腔保健学科においても、安定した志願倍率が得られた。 【実施(達成)できなかった点】	No.1「入学者選抜試験」	10

九州歯科大学(教育)

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
4.	2【広報活動の実施】	2-1【平成24年度計画】	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○オープンキャンパスは内容の充実を図り、昨年度の約2割増しの入場者を迎えることができた。 ・オープンキャンパスで回収したアンケート調査結果を分析した結果、診療体験、模擬実習等のイベント等で総じて高い評価が得られ、評価が「4」以上の割合は前年度に引き続き95%を超えた。</p> <p>○高校訪問等、積極的に広報活動を行った。 ・高校での模擬講座、高校訪問を実施した高校や入試説明会に参加した受験生アンケート結果から受験生の動向を分析し、「口腔保健学科を歯学科と切り離して前倒して高校訪問を行う」、「訪問先の高校を見直す」等、重点的、効率的な広報活動を展開した。</p> <p>○目標実績 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会 ：オープンキャンパス参加人数 409人 高校訪問数 121校 大学入試説明会参加数 22回</p> <p>・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査 ：オープンキャンパス評価4以上 96% 高校訪問評価：概ね良好 入試説明会評価：概ね良好</p> <p>・志願者数(志願倍率)： (歯学科) 志願者数(志願倍率) 436人(5.6倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 72人(3.3倍)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.1「入学 者選抜試 験」 No.3「高校 訪問」 No.4「入試 説明会」 No.5「出前 講座」 No.6「オー ンキャン パス」	11
4.	3【高大連携の実施】	3-1【平成24年度計画】	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○高校での模擬講義を実施するとともに、その評価方法について検討し、講義テーマや実施計画の見直しに反映させた。 ○高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会については、近隣の明治学園高校の教諭を対象に行い、併せて高大連携の強化について意見交換した。</p> <p>○目標実績 ・模擬講座実施回数、参加学生、参加者アンケート： 実施回数 5回 参加学生数 130人 良好評価 98.9%</p> <p>・大学施設見学会実施回数、参加教諭数、参加者アンケート： 実施回数 1回 参加教諭数 3人 良好評価 100%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.5「出前講 座」	12

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
5.学生への支援	1【学生相談・助言・支援の組織的対応】 1.学生のニーズや社会状況の変化に対応した学生支援の実施 2.教員、職員が連携したきめ細かな学生支援の実施	1-1【平成24年度計画】 ○施設整備や本館移転を学生に周知するとともに、利用しやすい環境作りに努める。 ・学生に対して学生支援に関するアンケート調査を実施する。 ○カレッジライフ・ガイダンスの充実を図り、学生に修学指針を周知徹底する。 ○保護者説明会を開催するとともに、保護者に対して大学の「学生指導」に関するアンケート調査を実施する。 ○達成目標 ・学生支援に関するアンケート調査：評価4以上(満点5) ・保護者説明会に関するアンケート調査：評価4以上(満点5)	1	【平成24年度の実施状況】 ○施設を利用しやすい環境作りに努めるために、学生に対して学生支援に関するアンケート調査を実施した。 ○カレッジライフ・ガイダンスを各学年において年度内に4回実施し、学生に修学指針を周知徹底した。 ○保護者説明会を開催するとともに、同説明会において保護者に対して大学の「学生指導」に関する聞き取り調査を実施した。 ○平成24年度から、「学長賞」を設定し、秀でた活動を行ったクラブを表彰した。 ○目標実績 ・学生支援に関するアンケート調査：評価3.0(満点5) ・保護者説明会に関する個別聞き取り調査：概ね良好	A	【高く評価する点】 カレッジライフ・ガイダンス(現キャンパスライフガイダンス)を4回実施し、学年主任会議、学生対策指導会議などの連携のもと、修学指導に取り組んだ。学生支援に関するアンケート調査を実施して、学生支援向上に向けてフィードバックさせる体制を整えた。さらに、学長賞を設定し、学生が意欲的に大学生活を送ることができるような制度を設計した。 【実施(達成)できなかった点】 学生アンケートでは、自習室の部屋数・開所時間やパソコン環境等主に設備に係る項目での評価が低かった。自習室については、H25に改善を図った。なお、耐用年数(7年)を越えているパソコン環境については、更新予算を県に相談しているところである。	No.7「学生の満足度調査」 No.16「課外活動の状況」	13
5.	2【就職支援の充実】	2-1【平成24年度計画】 ○就職支援に係る運用のシステム化を図る。 ・教員の「キャリアカウンセラー資格」の取得によりキャリア・デザイン支援方法を検討する。 ・求人情報の閲覧システム及び就職支援全般の運用システムの構築に向けた検討を行う。 ・口腔保健学科生を対象とした「キャリアガイダンス」を開催するとともに、就職支援面談及びセミナーを実施する。 ・就職支援室に専任の事務職員を配置する。 ○新たな就職先開拓を検討する。 ○達成目標 ・(歯学科)歯科医師臨床研修マッチング率：100% ・(口腔保健学科)就職率：100% ・訪問先の企業・病院・施設でのアンケート調査：良好評価60%以上	1	【平成24年度の実施状況】 ○就職支援に係る運用のシステム化を図るため、学長のもとに設置している「就職支援会議」及び「就職支援実施会議」において検討した。 ・教員の就職支援体制として、「キャリアカウンセラー資格」の取得支援を行った。 ・「求人者」、「求職者」情報のデータベース化に取り組み、求人情報の閲覧システム及び就職支援全般の運用システムの構築を行った。 ・口腔保健学科生を対象とした「キャリアガイダンス」を開催するとともに、就職支援面談及びセミナーを実施した。 ・就職支援室に専任の事務職員を配置した。 ○就職支援会議主導で、新たな就職先開拓のため企業訪問等を実施した。 ○目標実績 ・歯科医師臨床研修マッチング率：100%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.18「就職状況」	14

九州歯科大学(教育)

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
5.	3【経済的支援の充実】 ①図書館やTA等により、 学内で学生・大学院生を 随時的に雇用するなど、 経済的支援を充実させ る。 ②授業の減免・分納制度 や奨学金情報の周知徹底 を図る。 ○達成目標 ・TA制度の認知度:100% ・学生支援機構以外の奨 学金の認知度:100%	3-1【平成24年度計画】 ○経済支援の機会を提供する。 ・図書館業務、学内行事等において、学生・ 大学院生を随時的に雇用する。 ○学生への経済支援に係る情報の収集・提 供を行う。 ・県内外の自治体及び民間団体の奨学金 制度情報の速やかな把握と学部学生及び 大学院生への適宜の情報提供を実施する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○経済支援の機会を提供する。 ・図書館業務、学内行事等において学生・大学院生を随時的に雇用了。 ○学生への経済支援に係る情報の収集・提供を行う。 ・カレッジライフ・ガイダンス(現キャンパスライフ・ガイダンス)を利用して、県内外の自治体及び民間団体の奨学金制度情報の 速やかな把握と学部学生及び大学院生への適宜の情報提供を実施した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		15
		ウェイト総計	24年度 17			項目数計		24年度 15

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

「1-1-2-1」平成23年3月31日に文部科学省が発表した医療系モデル・コア・カリキュラムの改訂に対応し、臨床力を高める教育の充実に重点的に取り組む。
「1-2-3-1」単科大学における歯学と工学の大学院連携は日本で初めての試みであり、この取組を推進することにより、本学のPRや質の高い研究者の育成、ひいてはブランドイメージの向上につなげていく。

教育に関する特記事項(平成24年度)

なし

年度計画項目別評価

中期目標 2 研究	「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の歯科保健医療の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。
--------------	---

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 研究水準 並びに研究 成果の向上 1.全学的研究 事業の展開 2.研究成果 の公表	1【適正な研究者の配置及 び研究費の配分】 ①大学として特色ある研究、 地域社会の発展に役立つ研究を 推進するため、教員の研究業績を 評価分析し、各分野における教員 配置の適正化を図る。 ②大学に貢献する研究に対し、 研究費を重点配分する。 ○達成目標 ・研究成果に応じて配分する学長 配分研究費の割合：40%	1-1【平成24年度計画】 ○分野ごとに研究業績の評価を行 い、教員を適正に配置する方法を 検討する。 ○大学の理念に沿った学長配分研 究費の方法を検討する。 ○達成目標 ・研究成果に応じて配分する学長 配分研究費の割合：40%	1	【平成24年度の実施状況】 ○分野ごとに研究業績の評価を行 い、教員を適正に配置する方法を 検討した。なお、24年度中は、配 置に特に適正さを欠くとみなされ る教員はいなかった。 ○学長重点枠で、中期計画の達成 に資する「問題解決型」「FS研究 」「歯工学連携」の3つの分野の 研究を公募し、研究計画とこれま での研究実績をもとに重点配分を 行った。 ・学長重点枠を活用して、Asia-Pa cific Conference in Fukuoka 2013 を開催した。 ○目標実績 ・研究成果に応じて配分する学長 配分研究費の割合：40%	A	【高く評価する点】 中期計画に基づいて研究内容を分 類し、各項目に適した研究を公募 し、研究費の重点配分を行った。 学長重点枠をもとに、開学以来は じめて公用語を英語として、第1 回Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2013を開催して、学内外 から300名以上の参加者が集い、 歯科医学について意見交換を行 った(H25年1月26日)。 【実施(達成)できなかった点】		16
1.	2【研究の事後評価シ ステムの充実】 ①研究活動の事後評価シ ステムを適正化し、各研究者の研 究活動を公表する。 ②研究開発成果などの知的 財産を総合的かつ戦略的に管理・ 活用する知的財産部門を設置する。 ○達成目標 ・論文数(査読有りのもの、学術 書掲載のもの)：英文誌70件(年 間) ・学会発表(国際学会での招待講 演、シンポジウムに限る)：25 件(年間) ・特許保有件数：3件 (第2期中期計画期間を通して年 間に保有する件数)	2-1【平成24年度計画】 ○研究活動の評価・検証シ ステムを運用し、研究費配分の適 正性をチェックする。 ○各教員の研究活動の中で客 観的評価の高い研究内容や、大 学が推進する研究の成果をホ ームページ上で公表する。 ○本学の研究成果を知的財産 の観点から検証する組織の必要 性について検討する。 ○達成目標 ・論文数(査読有りのもの、学 術書掲載のもの)：英文誌70 件 ・学会発表(国際学会での招待 講演、シンポジウムに限る)： 25件 ・特許保有件数：1件	1	【平成24年度の実施状況】 ○研究計画を申請する際に、 研究業績を評価し、研究計画と 研究実施能力に基づいて研究費 を配分した。 ○各教員の研究活動の中で客 観的評価の高い研究内容や、大 学が推進する研究の成果をホ ームページ上で公表した。 歯工学連携の研究成果：1件、 大学院生：3件、教員：1件 ○本学の研究成果を知的財産 の観点から検証する組織として 発明委員会を開催した。 ○目標実績 ・論文数(査読有りのもの、学 術書掲載のもの)：英文誌70 件 ・学会発表(国際学会での招待 講演、シンポジウムに限る)： 25件 ・特許保有件数：3件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.20「論文 等の実績」	17

九州歯科大学(研究)

項目	中期計画 実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
					評価	理由		
1.	3【外部大型研究資金の獲得】 ①大学として、大型外部資金獲得のために積極的な活動を行う。 ○達成目標 ・科学研究費：60件(年間) ・委託研究費・共同研究費：60件(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金：60件(第2期中期計画期間中) ・文部科学省等が設定する大型プロジェクトの獲得：1件(第2期中期計画期間中)	3-1【平成24年度計画】 ○教員個人の外部研究資金の増加を目指すとともに、大学として歯工学連携などを通じ組織的に研究資金獲得を推進する。 ○大学組織としての外部大型資金の獲得に向けた検討を行う。 ○達成目標 ・科学研究費：60件 ・委託研究費・共同研究費：10件 ・奨学寄付金：10件	2	【平成24年度の実施状況】 ○教員個人の外部研究資金の増加を目指すとともに、大学として歯工学連携などを通じ組織的に研究資金を獲得した。 ○大学組織としての外部大型資金を獲得した。(文部科学省補助金事業(大学間連携共同教育推進事業)) ○目標実績 ・科学研究費：72件 ・委託研究費・共同研究費：10件 ・奨学寄付金：19件	A+	【高く評価する点】 文部科学省大学連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクトを獲得した。 平成24年度 36,366千円 平成25年度以降(4ヶ年間) 58,000千円 【実施(達成)できなかった点】	No.19「研究」	18
1.	4【産学官連携の推進】 ①一般企業ならびに学外諸機関との交流を深め、歯学部得意分野を活かした連携を推進する。 ○達成目標 ・産学官連携件数：40件(第2期中期計画期間中) ・特許出願件数：10件(第2期中期計画期間中)	4-1【平成24年度計画】 ○他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進する。 ○歯工学連携をさらに医歯工学連携に発展させ、県民の健康・福祉の向上に向けた研究を推進する。 ○達成目標 ・産学官連携数：5件 ・特許出願件数：2件	1	【平成24年度の実施状況】 ○他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進した(文部科学省補助金事業(大学間連携共同教育推進事業))。 ○歯工学連携をさらに医歯工学連携に発展させ、口腔癌の簡易かつ迅速な診断方法を確立し、県民の健康・福祉の向上に向けた研究を推進した。 ○経済産業省「平成24年度課題解決型医療機器等開発事業」(通称：歯周病事業)に参画した。 ○目標実績 ・産学官連携数：10件 ・特許出願件数：2件	A	【高く評価する点】 文部科学省大学連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクトを獲得し、産業医科大学、九州工業大学、北九州市立大学とともに医歯工学連携の道を拓いた。さらに、この大学間連携共同教育推進事業を通じて、大学院教育改編につなげていくつもりである。 歯工学連携の研究結果が西日本新聞、読売新聞に掲載された。 【実施(達成)できなかった点】	No.21「産学官連携」	19
		ウェイト総計	24年度 5			項目数計		24年度 4

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

「2-1-3-1」歯工学連携を締結して3年が経過し、新たな飛躍を目指す上で大型外部資金の獲得にも積極的に取り組む。

研究に関する特記事項(平成24年度)

なし

年度計画項目別評価

中期目標 3 社会貢献	「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、歯科医師や歯科衛生士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域の歯科保健医療の発展に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。
----------------	---

項目	実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1.地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・維持 1.社会貢献及び国際交流の促進 2.地域連携および国際交流に係る業務の組織的対応	1【リカレント教育の充実】 ①地域歯科医療に携わる歯科医療職に対して、セミナーの開催やe-learning等を通じたリカレント教育を展開する。 ○達成目標 ・開催回数および受講者数：開催回数 2回/年 受講者数 50人/回 ・アンケートによる満足度調査：満足度4点以上(満点5) ・e-learningの満足度調査：満足度4点以上(満点5)	1-1【平成24年度計画】 ○地域歯科関係者に対するセミナーの内容を検討する。 ・歯科医師を対象としたセミナーの企画を立てる。 ・セミナー開催時に受講満足度にかかるアンケート調査内容を検討する。 ○e-learningの充実を図る。 ・e-learning受講者を対象とした受講満足度にかかるアンケートを実施する。 ○達成目標 ・e-learningの満足度調査：満足度4点以上(満点5)	1	【平成24年度の実施状況】 ○地域歯科関係者に対するセミナーを開催した。 ・お口の健康セミナーを開催し、83名の医療関係者の参加があった。そのうち、歯科関係者は20名であった。 ・満足度に関するアンケート調査を行い、75%の回答率を得た。そのうち、93%の者が満足度4以上との回答であった。 ○e-learningを配信し、受講満足度の実態把握に努めた。 ・e-learning受講者を対象とした受講満足度にかかるアンケートを実施したところ、平均満足度は4.5であった。 ○達成目標 ・e-learningの満足度調査：満足度4.5点(満点5)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20
1.	2【他大学との社会貢献共同プログラムの実施及び研究成果等の地域への発信】 ①県立三大学連携による社会貢献共同プログラムを実施する。 ②市民公開講座等を通じて、地域住民に研究成果等の情報を広く発信する。 ○達成目標 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画以上 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数3回/年 受講者数 50人/回 ・受講者の満足度に関するアンケート：受講者の満足度 4以上(満点5)	2-1【平成24年度計画】 ○三大学連携による地域貢献活動の実施を目指す。 ・「県立三大学連携会議」により、各大学の特色を活かした地域貢献連携事業を検討する。 ○公開講座等により地域住民に研究成果等を情報発信する。 ・医療従事者や一般市民等を対象とした公開講座を開催する。 ・北九州市の4大学(北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学、九州歯科大学)が連携し、4大学スクラム講座を実施する。 ・地元医師会や行政機関等が主催する8020運動関連イベント等での研究成果の発表に努める。 ○達成目標 ・公開講座等の開催：3回 ・受講者数：50人/回 ・受講者満足度：4以上(満点5)	1	【平成24年度の実施状況】 ○三大学連携による地域貢献活動を実施した。 ・「県立三大学連携会議」により、各大学の特色を活かした地域貢献連携事業として公開講座を開催した。 ○公開講座等により地域住民に研究成果等を情報発信を行った。 ・本学主催で、医療従事者や一般市民等を対象とした公開講座を開催した。とくに、百周年記念事業として開催した市民公開講座『ガッテン流！心に伝わる健康情報の極意』は200名近い参加者があった。 ・北九州市の4大学(北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学、九州歯科大学)が連携し、4大学スクラム講座を実施した。 ・地元歯科医師会主催の公開講座や本学主催の研究成果発表会等で、研究成果の発表を行った。 ○目標実績 ・公開講座等の開催：7回 ・受講者数：81人/回 ・受講者満足度：4以上(満点5)獲得率87.8~100%	A	【高く評価する点】 公開講座等を目標を超えて7回実施し、特に百周年記念事業の一環として開催した市民公開講座『ガッテン流！心に伝わる健康情報の極意』では200名近い参加者があった。 【実施(達成)できなかった点】	No.22「大学間連携」 No.23「公開講座」	21

九州歯科大学(社会貢献)

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1.	3【アジアを軸とした海外との連携促進】 ①アジア諸国から留学生を積極的に受け入れる体制を強化する。 ②海外大学との学術交流を推進する。 ③ネパールやベトナムを中心とした歯科保健活動を推進する。 ○達成目標 ・留学生数:5人(第2期中期計画期間中) ・海外大学との学術交流件数:5件(第2期中期計画期間中)	3-1【平成24年度計画】 ○留学生を積極的に受け入れる。 ・英語教材の開発などを進め、英語による講義・実習を検討する。 ○海外大学との学術交流を進める。 ・現在本学に在籍する留学生や本学からの海外留学生を通して、海外大学との学術交流を推進する。 ・海外研究者との連携を図り、国際シンポジウムを企画する。 ○海外での歯科保健活動を推進する。 ・ネパールやベトナムでのこれまでの活動を総括し、今後のあり方を検討する。 ○達成目標 ・留学生数 : 1人 ・海外大学との学術交流件数 : 1件	1	【平成24年度の実施状況】 ○留学生の積極的な受け入れに向けた取組を行った。 ・英語教材の開発などを進め、大学院のシラバスでは、海外留学経験者が担当する一部学科目において英語による表記を行った。現在留学生がほとんどいないため、一部学科目のみで英語で講義を実施しているが、今後留学生の受入が増えるようであれば、全科目での実施を予定している。 ○海外大学との学術交流を進めた。 ・平成25年1月1日付けで、本学の英語表記をKyushu Dental Universityに変更した。 ・海外大学との学術交流を積極的に推進し、ミャンマーの2大学と協定、台湾の1大学と覚書を交わし、学術交流を開始した。 ・海外研究者との連携を図るため、本学主催で国際シンポジウム(ASIA PACIFIC CONFERENCE)を開催し300名以上の参加があった。 ・高雄医科大学(台湾)を口腔保健学科の学生が訪問し、学生交流を行った。 ○海外での歯科保健活動を推進する。 ・ネパールやベトナムでのこれまでの活動を総括し、今後のあり方を検討した。この結果、ベトナムには今回初めて歯科医師に麻酔医、看護師を加えたチームでの派遣を行った。 ○目標実績 ・留学生数 : 2人 ・海外大学との学術交流件数 : 5件(新規3件)	A+	【高く評価する点】 海外大学との学術交流を推進し、ミャンマーの2大学と協定、台湾の1大学と覚書を交わし、学生教育を軸とした学術交流を開始した。 海外研究者との連携を図るため、本学主催で歯学教育における国際シンポジウム(ASIA PACIFIC CONFERENCE)を開催し、300余名の参加者が得られた。 【実施(達成)できなかった点】	No.24「国際交流協定」 No.25「学生、教員の国際交流」	22
1.	4【地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動の実施】 ①保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (歯と口を通じた地域住民の子育て支援活動) ②公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (食べる機能の維持・向上を通じた高齢者の自立支援活動) ③福岡県歯科保健医療計画の見直しに必要なデータを提供する。 (福岡県民への歯科保健医療施策に対する後方支援活動) ○達成目標 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査 : 5回 満足度4以上(満点5) ・公民館、老人クラブ等への訪問回数及びアンケート調査 : 5回 満足度4以上(満点5)	4-1【平成24年度計画】 ○平成25年度からの普及・啓発活動の実施に必要なニーズを把握し、実施方法を検討する。 ・地域の保育園、幼稚園、公民館、老人クラブ等の利用者や関係者に対するアンケート調査を実施する。 ○達成目標 ・地域の保育園、幼稚園、公民館、老人クラブ等の利用者・関係者に対するアンケート調査 : 施設属性ごとに1回以上 ○平成25年度に検討が見込まれる福岡県歯科保健医療計画の見直しに必要な基礎データを集める。 ・モデル地区を設定し、歯科保健医療に関する地域診断を実施する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○H25から実施する歯科相談等の施設選定について、北九州市・北九州市私立幼稚園連盟及び小倉北区老人クラブ連合会と協議した。 ・保育園・幼稚園を5施設選定した。 (到津保育園、篠崎保育園、八幡カトリック幼稚園、聖ヶ丘幼稚園、天心幼稚園) ・老人クラブ、高齢者施設を5施設選定した。 (小倉北区老人クラブ連合会、堺町老人会、南小倉校区老人クラブ、シルバー・サン・ホーム、シティホーム) ・事前のアンケート調査については、乳幼児・高齢者施設それぞれの団体代表者と協議して、行わないこととしたため、実施しなかった。 ○県からの依頼に備え、歯科保健医療計画の策定にかかるデータ収集を行う上で、本学が協力できる事項について、関係3課(医療指導課、健康増進課、高齢者支援課)と協議した。 ○「福岡県歯科口腔保健の推進に関する条例」(平成25年3月29日制定)に先んじて、医療指導課との協議の中で、さまざまなエビデンス(証拠・根拠)を提供し、その制定に協力した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		23

九州歯科大学(社会貢献)

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番 号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
1.	5【地域における在宅療養高齢者に対する歯科保健医療サービスの提供】 ①地域で在宅療養を行っている高齢者の口腔機能に着目して、摂食嚥下リハビリテーションなどの歯科保健医療サービスを提供する。	5-1【平成24年度計画】 ○平成25年度からのサービス提供に必要なニーズを把握し、実施方法を検討する。 ・地域で在宅療養を行っている高齢者に対し、アンケート調査と訪問健診を実施する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○要介護状態の患者における訪問診療のニーズについて、介護病棟を有する北九州八幡東病院の歯科衛生士に聞き取り調査を行った。 ○歯科診療所では対応が困難な在宅患者に対する訪問歯科診療の具体的実施方法については、同病院において開催された歯科訪問診療研修会で北九州市・八幡歯科医師会の担当歯科医師と協議を行い、口腔ケアおよび歯科診療の在り方について、意見交換を行った。 ○歯科診療が困難な要介護高齢者108名およびその介護者に対して口腔機能と食事に関するアンケート調査と口腔健診を実施した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24
		ウエイト総計	24年度 5			項目数計		24年度 5

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

なし

社会貢献に関する特記事項(平成24年度)

なし

年度計画項目別評価

<p>中期目標 4 業務運営</p>	<p>「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。 多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。</p>
------------------------	---

項目	実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 事務局体制の強化 1.戦略的・自律的の大学運営をさらに進めるための専門部署の設置 2.専門性を有する人材の確保・育成による、県派遣職員に依存する業務体制から自律的の大学運営に資する業務体制への転換	1【大学の戦略的・自律的運営を企画主導する企画広報部門の設置及び運営体制の検証】 ①大学運営の戦略や中期計画等重要事項の企画立案・検討を行い、情報発信の中心となる企画広報部門を経営管理部に設置する。 ②企画広報部門により、戦略的・自律的の大学運営を推進する。 ③企画広報部門の業務運営を検証する。	1-1【平成24年度計画】 ○事務局に企画広報班を設置し、その役割や効果を検証する。 ・経営管理部の組織として新たに「企画広報班」を設置し、適正な人事配置を行う。 ・「企画広報班」に事務局各班の業務の一部を移管するとともに、情報処理室業務の円滑な移管を図る。 ・年度後半に「企画広報班」設置の効果を検証し、体制の見直し等が必要か検討する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○企画広報班の役割や効果について検証した。 ・新たに設置した企画広報班には班長以下職員3名、うち1名は情報処理専門として採用したプロパー職員を配置した。 ・企画広報班の設置に伴い、事務局内各班の業務見直しを行った。企画広報班には、大学の戦略的・自律的運営を企画主導する中期・年度計画やその実績のとりまとめといった企画部門、ホームページ等広報部門、情報管理や情報セキュリティに関する業務の移管を行った。 ・企画広報班の設置により、法人組織として、企画・情報管理・広報にかかる所管が明確となり、業務フローの円滑化につながる等、一定の効果があつた。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		25
1.	2【プロパー職員の採用と専門性を持った大学職員の育成】 ①事務職や看護職等のプロパー職員を採用し、将来の大学運営を担う専門性を持った職員を育てる。 ②プロパー事務職員の人事評価制度を導入し、必要に応じて見直す。 ③人事評価に基づき採用計画の検証・見直しを行い、第3期中期計画期間に向けた事務局体制を検討する。	2-1【平成24年度計画】 ○専門性を有する職員を育成するため、競争試験等によりプロパー職員を採用し、その人事評価制度の導入を図る。 ・プロパー事務職員の計画的な採用を行う。 ・プロパー事務職員の人事評価の方法を検討し、平成25年度以降の実施を目指す。 ○事務局体制の強化のため、平成25年度の県派遣職員とプロパー職員の配置計画を立てる。 ・プロパー職員の業務実態や貢献度等を勘案し、平成25年度の採用計画を見直す。 ・採用計画に従い三大学の共同採用試験を行う。	1	【平成24年度の実施状況】 ○専門性を有する職員を育成するため、三大学の共同採用試験によるプロパー職員の採用を行った。 ・プロパー事務職員を4名採用した。 ・プロパー事務職員の人事評価については、平成25年度からの実施に向けて、他大学等から情報収集を行った。 ○事務局体制の強化に向け、平成25年度には6名となるプロパー職員の適正配置も勘案しての職員配置計画を立案した。 ・プロパー職員の計画的な採用により、平成25年度には事務局内全ての班(5班)にプロパー職員が配置可能となった。 ・三大学の共同採用試験を行った。 第1次試験:10月14日(日) 受験者数:188名 第2次試験:11月18日(日) 受験者数:12名	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		26

九州歯科大学(業務運営)

項目	中期計画 実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
					評価	理由		
1.	3【SDの実施や専門研修等への派遣、キャリア開発支援等を軸とした事務局職員の資質・能力の向上】 ①福岡県の公立大学の職員としてふさわしい知識や資質を身に付けさせるため、事務局職員を対象としたSDを検討し実施する。 ②大学運営のスペシャリストとして育成するため、プロパー職員を公立大学協会等が主催する外部セミナーや専門研修へ派遣する。 ③事務局職員の自律的なキャリア開発支援として、自己啓発や通信教育などに対する支援を検討し実施する。 ④より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討し実施する。	3-1【平成24年度計画】 ○プロパー職員の採用を機に、事務局職員の資質・能力の向上に取り組む。 ・事務局職員のSDの方法を検討し、次年度以降の実施を目指す。 ・公立大学協会等が主催するセミナーや研修に事務局職員を積極的に派遣する。 ・事務局職員の自主的・自発的な研修を支援する方策を検討する。 ・県立三大学と事務処理の共通化について検討する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○事務局職員の資質・能力の向上に向け、SDの実施や研修機会の提供等に努めた。 ・事務局職員のSDとして、大学の沿革や法人化の経緯等のオリエンテーションを実施した。 ・公立大学協会主催のセミナーや、県職員研修所の新規採用職員研修等にプロパー職員を受講させた。 ・各種研修の情報収集を積極的に行い、年度当初に提示することにより、研修への参加機会を確保した。 ・県立三大学の事務処理の共通化に向け、本学主導で県立三大学事務統合等検討会議を招集し、県立三大学事務局システム共同導入ワーキンググループを設置した(事務局:本学)。この中で、県立三大学事務局システムの共同導入等について協議した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		27
2.	1【情報ネットワークや情報セキュリティの強化による情報マネージメントシステムの拡充】 ①情報セキュリティポリシーを策定する。 ②情報セキュリティの検証、教職員に対する広報・研修を行い、情報マネージメントの運用体制の充実を図る。	1-1【平成24年度計画】 ○情報マネージメントを強化するための体制整備を行う。 ・新たに設置する「企画広報班」を情報マネージメントの担当部署とし、情報処理専門の人材を配置する。 ・「企画広報班」と情報処理室が連携し、情報マネージメントの根幹となるセキュリティポリシーの策定について検討する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○情報マネージメントを強化するための体制整備した。 ・企画広報班に情報処理専門のプロパー職員を配置し、情報マネージメント業務を担うこととした。 ・セキュリティポリシーの策定に向け、関連団体や民間が主催するセミナーへの参加等を通じて、情報収集を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		28
2.	2【安心・安全の医療を提供するための体制の整備】 ①附属病院診療機器更新の整備計画を策定する。 ②診療情報管理体制を充実する。 ③医療情報システムを充実する。 ④医療安全に関する検証・対策を強化する。 ⑤医療従事者の技術向上等に向けた研修体制を拡充する。 ○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施 : 年2回	2-1【平成24年度計画】 ○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進する。 ・副病院長会において、附属病院診療機器更新の整備計画を策定する。 ・副病院長会において、診療情報管理士の配置に向けた検討を行う。 ・病院運営部会において、リスクマネジメント活動の強化に向けた検討を行う。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施する。 ○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施 : 年2回	1	【平成24年度の実施状況】 ○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進した。 ・副病院長会において、附属病院診療機器更新の整備計画を策定した。 ・副病院長会において、診療情報管理士の配置に向けた検討を行い、H26年度の配置を目標とすることとした。 ・病院運営部会において、リスクマネジメント活動の強化に向けた検討を行い、医療安全管理室(仮称)の設置を進めることとした。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施した。 ・附属病院内に、将来計画委員会(委員長:附属病院長)を立ち上げ、組織体制・運営体制等について問題点の抽出を行い、「附属病院将来構想」を作成した。 ○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施 : 年2回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		29

九州歯科大学(業務運営)

項目	中期計画 実施事項	平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
					評価	理由		
3.教員個人業績評価の充実 1.個人業績評価制度の適切な運用	1【個人業績評価制度の検証と適切な運用】 ①口腔保健学科教員に対応する個人業績評価制度を検討し、1学部2学科体制に適した運用方法を構築する。 ②個人業績評価に係る教員処遇方法を検証し、必要に応じて改善する。	1-1【平成24年度計画】 ○教員個人業績評価システムのブラッシュアップを行う。 ・口腔保健学科教員に対する適正な評価方法を検討する。 ・教員の大学運営への積極的な参加を促すため、評価対象項目を見直す。 ・個人業績評価の教員への処遇方法の見直しを検討する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○評価システムのブラッシュアップを行った。 ・歯学科、口腔保健学科の教員への分野長(講座長)評価を導入するとともに、「評価に関する実施基準」により評価の基準、評価項目及び実施手順等を明確化した。 ・評価対象項目の見直しについては、評価検討部会において「自己評価実績報告書の附属書」の内容検討を行い、評価に適した内容変更を行った。 ・個人業績評価の教員への処遇方法の見直しについて検討を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		30
4.附属病院の改善 1.新たな診療体制の確立 2.地域歯科医療連携体制の整備 3.療養担当規則の徹底等、より適切な保険診療の推進	1【診療科再編による診療体制の充実】 ①診療科再編の効果を検証し、先進医療の円滑な実施に資する診療体制を確保する。	1-1【平成24年度計画】 ○附属病院における診療科再編の効果の検証を実施する。 ・患者の実態調査を実施し、患者ごとの診療時間、診療待ち時間、満足度等を把握することで、診療科再編による診療体制の充実が図られているか、確認する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○患者の診療待ち時間や満足度に関する調査を実施した。 ・新患者の72%から診療内容に満足との回答を得、不満という回答はなかった。 ・再来患者でも70%が満足と回答していたが、4%にやや不満、2%に不満という回答があった。 ・診察待ち時間に関しては初診患者の8%にやや不満との回答があったが、不満という回答はなかった。 ・再来患者では4%にやや不満、2%に不満という回答があった。 ・部署別の待ち時間調査では新患者では担当する科の診察だけでなく、診断科、放射線科で待たされる傾向にあった。 ・受付や会計は比較的スムーズに流れているようであった。 ・再来患者では予約制であることもあり、82%が15分以内に診察を受けられていたが、12%が15分～30分、6%が30分以上待たされていたことは問題であると考えている。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		31
4.	2【地域包括型歯科医療連携の機能の整備】 ①病診連携室の業務を拡充し、地域包括型歯科医療連携体制を整備する。	2-1【平成24年度計画】 ○病診連携室の業務を拡充し、地域包括型の円滑な実施に資する診療体制の確保に向けた検討を行う。 ・病診連携に関する紹介元歯科医療機関、紹介患者、紹介を受ける側の本院歯科医師、地域住民を対象とした意識調査を実施し、それぞれのニーズとディマンドを的確に把握する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○地域包括型歯科医療連携体制に向け、病診連携室を中心に以下のとおり取り組んだ。 ・北九州市内の5つの歯科医師会およびみやこ町歯科医師会の会員(計100名)との意識調査のための意見交換会を行い、ニーズとディマンドの把握ができた。 ・下関地区と北九州地区の病院歯科勤務医会を3ヶ月に1回の割合で実施し、症例検討や勉強会を通じて意見交換を行った。 ・大学近隣の医科病院の病院長・病診連携担当者との意見交換を行い、今後の連携・登録化への道筋をつけることができた。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		32

九州歯科大学(業務運営)

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
4.	3【療養担当規則をベースとした保険診療の推進】 ①電子カルテシステムの検討状況を踏まえ、診療記録の記載を充実させる。 ②保険診療の理解を深化させるための研修を実施する。 ③診療報酬請求業務を充実させる。 ○達成目標 ・保険診療業務に関する研修：年12回	3-1【平成24年度計画】 ○療養担当規則をベースとした保険診療を一層推進する。 ・医療部会において、診療記録の記載の充実に向けた具体的取組を検討する。 ・医療部会において、診療報酬請求状況の精査を行い、的確な請求を行うため、診療担当医への個別指導等の研修を実施する。 ・医療部会からの診療担当医への個別指導等の内容を、診療担当医から各診療科の歯科医師へ伝達研修として実施する。 ○達成目標 ・保険診療業務に関する研修：年12回 (上記の伝達研修を含めて実施する)	1	【平成24年度の実施状況】 ○療養担当規則をベースとした保険診療の推進に努めた。 ・医療部会において、診療記録の記載の充実に向けた具体的取組を検討し、診療報酬請求状況の精査を行った。具体的には、平成24年1月の診療報酬明細書とカルテ記載の照合を各診療科別に実施した。その結果については、各診療科の診療担当医に対して個別指導を行い、診療記録に関する研修を月1回の頻度で年12回実施した。 ・また、医療部会からの各診療担当医への個別指導等の内容については、診療担当医から各診療科の歯科医師へ伝達研修を実施し、その報告書を医療部会に提出してもらった。 ○目標実績 ・保険診療業務に関する研修：年12回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		33
		ウェイト総計	24年度 9			項目数計		24年度 9

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

なし

業務運営に関する特記事項(平成24年度)

なし

年度計画項目別評価

中期目標 5 財務	「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。 附属病院については、教育研究機能の充実と医療サービスの向上に努めるとともに、経営の効率化を推進する。
--------------	---

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
1.法人収入 の確保 1.外部資金 の獲得	1【外部研究資金等の獲得】 ①科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金等の個人研究費に加え、大学として外部大型資金の確保を図る。 ○達成目標 科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金の獲得件数及び金額 ・科学研究費 60件 100,000千円(年間) ・受託・共同研究費 60件 100,000千円(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金 60件 50,000千円(第2期中期計画期間中)	1-1【平成24年度計画】 ○個人研究費の獲得に加えて、大学の組織として外部大型資金の獲得を目指す。 ・個人研究費について、これまでの高い水準を維持する。 ・大学組織としての外部大型資金の獲得に向けた検討を行う。 ○達成目標 ・科学研究費：60件 100,000千円 ・受託研究・共同研究費：10件 15,000千円 ・奨学寄付金：10件 8,000千円	1	【平成24年度の実施状況】 ○外部資金獲得に積極的に取り組んだ結果、個人研究費は高い水準を維持するとともに、外部大型資金が獲得できた。 文部科学省補助金事業(大学間連携共同教育推進事業) 1件 平成24年度 36,366千円 平成25年度以降(4ヶ年間) 58,000千円 ○目標実績 科学研究費 72件 151,014千円 受託研究・共同研究費 10件 9,537千円 奨学寄付金 19件 10,083千円	A	【高く評価する点】 外部研究費の獲得については目標を達成しており、新たに外部大型資金の獲得にも繋がり、年度計画は充分達成できた。 【実施(達成)できなかった点】	No.19「研究」	34
2.運営経費 の抑制 1.業務の電 子化・システ ム化による 事務の省力 化、人件費 の抑制 2.事務局業 務の外部委 託による人 件費の抑制	1【事務局業務の外部委託、電子決裁システム導入や業務のシステム化による事務の省力化・人件費の抑制】 ①事務局の定型的な業務である給与支給事務を外部委託し、職員の削減と人件費の抑制を図る。 ②電子決裁システムを導入し、事務の省力化・ペーパーレス化を進める。 ③大学全体のIT化の一環として可能な業務をシステム化し、事務の省力化と従事人員の削減を図る。	1-1【平成24年度計画】 ○事務の省力化を目指し、ITを活用した業務のシステム化を図る。 ・法人及び大学の基幹業務について、システム化に向けた業務手順等の分析を行う。 ・現在稼働中の業務システムの有効性等について検証を行う。 ○事務局業務を外部委託し、職員の削減を図る。 ・事務局の定型的な業務であり事務処理に相当な時間と労力を要する給与支給事務を外部委託する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○事務の省力化、業務のシステム化に向けて検討を開始した。 ・基幹業務のシステム化については、「福岡県立三大学庶務事務共同導入ワーキンググループ」を組織し、検討を開始したところであり、その中で業務手順等について、県立三大学間での比較を行った。 ・本学で現在稼働中の業務システムについては、まず実態把握のための一斉調査を行った。 ○給与支給事務の外部委託をH24当初より実施したことに伴い、庶務部門の職員1名を削減することができた。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		35

項目	実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
3.附属病院の収入の向上 1.高次医療の提供 2.先進医療及び自費診療の推進 3.訪問歯科診療の推進	1【地域包括型歯科診療連携体制に基づいた高次医療の提供による収入増】 ①地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ○達成目標 ・かかりつけ歯科医等との地域連携バスの策定	1-1【平成24年度計画】 ○地域の歯科医療機関との連携を積極的に進めるため、関係機関との協議を行う。 ・病診連携室の業務拡充と連携し、意識調査で把握したニーズとディマンドをもとに、地域歯科医療機関、医科医療機関、介護施設、行政機関等と、地域連携バスの策定(平成26年度実施予定)に向けた協議・検討を行う。	1	【平成24年度の実施状況】 ○北九州市内とみやこ町歯科医師会の会員との意見交換会をそれぞれ1回/年行い、ニーズとディマンドの把握を行った。 ・地域連携バスの策定(平成26年度実施予定)に向け、医科医療機関との医療連携促進事業として、医療機能連携協定書の作成に着手した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		36
3.	2【先進医療及び自費診療の積極的推進による収入増】 ①先進医療の届出を積極的に進め、診療報酬等の収入増を図る。 ②地域住民に高度な医療を提供する自費診療を推進し、収入増を図る。 ○達成目標 ・先進医療の届出件数：第2期中期計画期間中を通じて2件(継続分1件+新規分1件)	2-1【平成24年度計画】 ○先進医療の届出を積極的に進めるための検討を実施する。 ・平成24年度診療報酬改定によって変更された先進医療の施設基準等を精査し、本院における具体的な取組を検討する。 ○達成目標 ・先進医療の届出件数：1件を継続。新規1件の申請に向けての症例数の積み上げ ○地域住民に高度な医療を提供する自費診療を推進する。 ・自費診療の実施件数、実施額等が対前年度比プラスとなるよう自費診療の一層の推進について、院内研修会等を実施し、本院歯科医師に奨励する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○先進医療の届出を積極的に進めるための検討を実施した。 ・平成24年度診療報酬改定によって変更された先進医療の施設基準等を精査し、本院における具体的な取組を検討した。うち、継続分については、歯周外科治療におけるバイオ・リジェネーション法について、施設基準について合致していることを確認して継続申請を行うことができた。 また、新規については、1)歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴、2)床義歯補綴治療における総合的咬合・咀嚼機能検査、3)金属代替材料としてグラスファイバーで補強された高強度のコンボジットレジンを用いたユニットブリッジ治療について、施設基準について検討中である。 ○目標実績 ・先進医療の届出件数：1件を継続。 ○地域住民に高度な医療を提供する自費診療を推進した。 ・病院の組織改革を行い、これまで以上に地域住民に高度な医療を提供する環境構築を行った。 ・歯科医療保険制度について学習する機会を増やし、制度内において適切な範囲で診療報酬が向上するよう本院歯科医師に奨励した。 ・保険診療および自費診療における歯科医師・歯科衛生士のチーム医療をより推進するよう奨励した。 ・保険診療から自費診療への移行について、各診療科における関連内容の再確認と推進を本院歯科医師に奨励した。 ・自費診療の実施件数、実施額等が対前年度比プラスとなるよう自費診療の一層の推進について、院内研修会等を実施し、本院歯科医師に奨励した。 ・病診連携室を通じて地域住民および地域医療施設との連携を強化した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		37
3.	3【訪問歯科診療の促進による収入増】 ①歯科診療所に対応が困難な患者に対し社会的要請の高まる訪問歯科診療を促進する。 ○達成目標 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数：24回/年	3-1【平成24年度計画】 ○平成25年度からの実施に必要なニーズを把握するため、歯科診療所に対応が困難な在宅患者に対する訪問歯科診療の具体的実施方法を検討する。 ・地域で訪問歯科診療を必要とする在宅患者に対するアンケート調査と訪問健診を実施する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○介護病棟を有する病院の入院患者のうち、歯科診療所に対応が困難な患者に対して、歯科訪問診療を28回実施した。また、歯科衛生士による訪問口腔衛生指導についても、25回実施した。 ・介護施設と老人病院に入所中の要介護高齢者に対するアンケートと健診を実施した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		38
ウェイト総計			24年度 5		項目数計			24年度 5

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

なし

財務に関する特記事項(平成24年度)

なし

年度計画項目別評価

中期目標 6 評価及び 情報公開	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」 (1)評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。 (2)情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。
------------------------	---

項目	実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
					評価	理由		
1.外部評価 の大学運営 への反映	1.【適切な自己評価の実施 及び外部評価の大学運営 への反映】 ①県評価委員会の評価結果を教職員に周知し、法人運営の現状と課題に対する意識付けを行うとともに、評価の低い事項について改善に向けた取組を行う。 ②次期認証評価に向けた自己評価部会を立ち上げ、新たな評価基準に沿った自己評価を行うとともに、教職員や学生、卒業生に対するアンケートを継続的に実施する。 ③認証評価機関の評価を検証し、大学運営の改善すべき事項に対して速やかに対応する。	1-1 【平成24年度計画】 ○次期認証評価に向け自己評価に着手するとともに、業務評価の結果を適切にフィードバックする。 ・次期認証評価の受審に向けて新たに自己評価部会を立ち上げる。 ・自己評価部会により、教職員、学生及び卒業生に対するアンケート調査を実施する。 ・県評価委員会の評価を全学説明会で教職員に周知する。 ・評価の低い事項については改善策を検討し、速やかに大学運営に反映する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○次期認証評価に向け自己評価に着手するとともに、業務評価の結果を適切にフィードバックする。 ・次期認証評価の受審に向けて、自己評価部会を立ち上げた。 ・自己評価部会により、教職員、学生及び卒業生に対するアンケート調査を実施し、アンケート結果をもとに、改善すべき点を改善した。(学生から指摘があったコピー機のプリペイドカードについては、繰越が可能となるよう改善した。) ・県評価委員会の評価結果については、全学説明会において、教職員に説明するとともに周知した。 ・評価の低い事項については改善策を検討し、速やかに大学運営に反映した。例えば、教育(評価3)に関しては、国家試験の合格率低下が問題であったため、学長のリーダーシップのもと教員が一丸となって新年度当初より前年度以上に努力してきた。その成果が実り、今年度は新卒96.2%(全国2位)総数(既卒を含む)85.8%(全国4位)という高成績を得ることができた。 ・H24年度、公立大学協会が積極的な活動を展開している「公立大学大認証評価機構」の設置に関するフォーラム等に参加し、次年度以降公立大学協会が目指す新たな大学評価システムについての情報を入手し、学内で検討を開始した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		39
2.全国唯一 の公立歯科 大学としての ブランドイ メージの確 立	1.【教育・研究活動情報及び 研究実績の学外への積極 的な発信】 ①大学の教育方針(アド ミッションポリシー・カリ キュラムポリシー・ディプロ マポリシー)を広く学外へ 発信する。 ②本学の特色ある教育内 容をホームページやQ- shidaiゼミで公開し、外に 開かれた大学イメージを 醸成する。 ③大学の成果をまとめた 広報冊子を作り公開する ほか、大学案内を刷新す る。 ④教育研究活動情報公開 制度に対応してホーム ページを充実する。	1-1 【平成24年度計画】 ○大学の教育方針や教育研究活動を学 外へ発信する。 ・アドミッションポリシーやカリキュラムポリ シー等の教育方針を大学案内等の広報誌 で積極的に発信する。 ・特色ある授業や研究活動を外部に公開す るための手法を検討する。 ・大学の業績等を高校生ほか外部に発信す る新たな広報冊子の発行や大学案内の刷 新について検討する。 ・ホームページを充実し、教育研究活動情 報を適切に更新する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○大学の教育方針や教育研究活動等について、多様な媒体を通じて学外へ情報発信を行った。 ・歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科、および大学院歯学研究科各々のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディ プロマポリシーを制定し、ホームページで公開するとともに、入学募集要項等に掲載し、学内はもとより、広く学外へ発信し た。 ・本学の特色ある教育内容をホームページやQ-shidaiゼミで公開するとともに、オープンキャンパスや大学案内等でも公表し た。 ・新たな広報冊子の発行や大学案内の刷新について、検討に着手した。 ・教育研究活動情報公開制度に対応してホームページを修正するとともに新着情報を随時紹介しながら更新した。また、 ホームページの全面改正について検討を開始した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		40

九州歯科大学(評価及び情報公開)

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2.	2【百周年記念事業を活用した大学情報の発信】 ①広報誌、大学案内及びホームページ等すべての広報媒体を活用し、創立百周年を情報発信する。 ②大学の主要事業について、可能なものは「百周年記念事業」を前面に出して実施する。 ③百周年記念の一環として行う各種事業や新たに作成する記念誌等において大学情報を広く発信する。	2-1【平成24年度計画】 ○平成26年度に創立百周年を迎えることを広く情報発信するとともに、学内での機運を盛り上げる。 ・創立記念日を活用し、学生や教職員に創立百周年を意識させる。 ・本年度に作成・発行する広報誌や大学案内、ホームページで百周年をPRする。 ・百周年記念ロゴマークを学生手帳、募集要項、各種リーフレット、大学の封筒等に印刷する。 ・市民公開講座や4大学スクラム講座等の対外的イベントで百周年をアピールする。	2	【平成24年度の実施状況】 ・H24年5月11日の創立記念日に開催した学生表彰式や全学説明会等で百周年記念事業の説明を行い、教職員・学生の意識の高揚を図った。 ・九州歯科大学同窓会会報に、百周年記念ロゴマークの呈示と解説ならびに百周年記念事業について掲載した。平成25年元旦の毎日新聞に「地域連携によるものづくり継承人材育成協働プロジェクト」の広告と併せて創立百周年の広告を掲載しPRした。 ・ロゴマークは、大学所定の封筒、教職員の名刺、入学募集要項、学生手帳等の他、学内各分野が主催する学会や講演会のポスターに掲載し、全国的にもアピールした。 ・本学主催の市民公開講座、福岡県立三大学連携県民講座(福岡、田川、北九州、久留米で開催)及び4大学スクラム講座において、創立百周年を広く県民にPRした。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		41
		ウェイト総計	24年度 4			項目数計		24年度 3

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

「6-2-2-1」本学が創立百周年を迎える平成26年の前後の期間は、百周年と併せて全国唯一の公立歯科大学としての実績や教育研究活動の業績等を外部に発信する絶好の機会であり、スタートとなる平成24年度の取組如何がその成否を左右すると考えている。

評価及び情報公開に関する特記事項(平成24年度)

なし

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己 評価
		計画	実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	
		費用の部	3,371	3,303	▲ 68
		経常費用	3,371	3,301	▲ 69
		業務費	3,059	3,003	▲ 56
		教育研究経費	369	397	28
		診療経費	715	688	▲ 27
		受託研究費等	20	8	▲ 11
		人件費	1,954	1,909	▲ 44
		一般管理費	311	293	▲ 17
		(減価償却費 再掲)	(179)	(201)	(22)
		財務費用	0	0	0
		雑損	—	4	4
		臨時損失	—	1	1
		収益の部	3,378	3,229	▲ 148
		経常収益	3,378	3,228	▲ 149
		運営費交付金収益	1,482	1,449	▲ 33
		授業料収益	381	373	▲ 8
		入学金収益	60	63	3
		検定料収益	8	10	1
		附属病院収益	1,125	1,003	▲ 122
		受託研究等収益	6	9	2
		補助金等収益	124	120	▲ 3
		寄附金収益	14	23	9
		その他の業務収益	—	1	1
		資産見返運営費交付金等戻入	10	10	0
		資産見返補助金等戻入	85	89	4
		資産見返寄附金戻入	9	9	0
		資産見返物品受贈額戻入	12	12	0
		財務収益	0	0	▲ 0
		雑益	55	50	▲ 5
		臨時利益	—	1	1
		当期純利益	6	▲ 73	▲ 79

2. 資金計画予算		(百万円)		
区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
資金支出	3,227	3,267	▲ 40	
業務活動による支出	3,195	3,237	41	
投資活動による支出	16	14	▲ 2	
財務活動による支出	15	15	0	
資金収入	3,276	3,154	▲ 122	
業務活動による収入	3,276	3,154	▲ 122	
運営費交付金収入	1,499	1,488	▲ 10	
授業料収入	381	373	▲ 7	
入学金収入	60	63	3	
検定料収入	8	10	1	
附属病院収入	1,125	1,003	▲ 122	
受託研究等収入	6	9	2	
補助金等収入	124	121	▲ 3	
寄附金収入	14	31	17	
その他の収入	55	51	▲ 3	
投資活動による収入	0	0	▲ 0	
財務活動による収入	—	—	—	
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。		該当なし	—
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	なし		該当なし	—
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。		該当なし	—
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1. 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる 積立金の処分に関する計画 なし 2. その他法人の業務に関し必要な事項 なし		該当なし	—